



第1章

芝生を選ぼう

この章では、芝生化を計画するときに重要なポイントとなる
「芝生の種類と特徴」を御紹介します。
見た目の違い、管理のしやすさなど、
それぞれの特徴に合わせた芝生を選びましょう。

夏芝と冬芝の特徴

芝生は、生長の時期や特徴によって「夏芝」と「冬芝」の2つに分類されます。

園庭や校庭を芝生化する場合には、一般的に「夏芝」が用いられます。

分類	特徴	季節と生長
夏芝 (暖地型芝生)	<ul style="list-style-type: none"> 春から生育し、秋まで緑色の葉が繁る。 冬には休眠して茶色になる。 芝は固くて強い。 休眠中は回復能力がない。 冬に過度な利用をすると枯れる。 	
冬芝 (寒地型芝生)	<ul style="list-style-type: none"> 冬の間も緑色を保つ。 秋に種まきし、発芽する。 関東以南では、梅雨明けの暑さでほぼ消滅する。 毎年種をまく管理が必要。 	

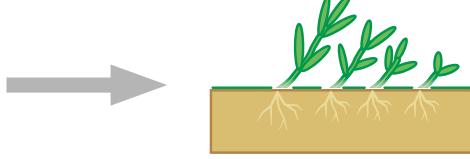
夏芝・冬芝の両方を使い、一年を通して芝生を緑に保つことも可能です。

夏芝+冬芝 両方を使う *「オーバーシード(OverSeed)」と呼ばれる手法。OSと記載される場合もある。	<ul style="list-style-type: none"> 秋に夏芝の上から冬芝の種をまく。 冬に休眠状態になり茶色くなる夏芝を保護する。 年間を通して管理が必要となる。 	
--	---	--

ほふく型と株型の芝生

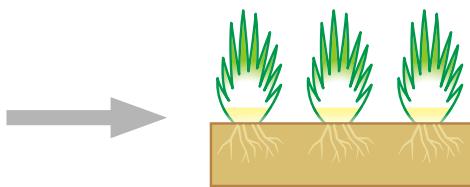
【ほふく型】(主に夏芝)

上にも伸び、横にも伸びる芝。
横に伸びるので隙間は自然とつながり、芝生面積が増える。



【株型】(主に冬芝)

上には伸びるが横には広がらない芝。
株の間に隙間があっても、自然にはつながらない。芝生面積を増やすには、隙間のないように種まきをする。



芝生の種類と特徴

「夏芝」と「冬芝」の主な種類を紹介します。
それぞれの特徴を生かして芝生を張る時期や場所の参考にしましょう。

分類	種類	特徴	写真
夏芝(植付けの適期 3月下旬~6月下旬)	バミューダ グラス類 (主にティフトン 419)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 校庭や競技場に多く利用されている。 ◆ 高温に強い。 ◆ 夏芝の中で最も繁殖力が強い。 ◆ 踏圧・擦り切れからの回復力がある。 ◆ 曜陰、寒さに弱い。 ◆ 生長が早いため、刈込みや散水・施肥が比較的多く必要となる。 ◆ ポット苗による施工が一般的。 	
	コウライシバ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 園庭、個人庭園で多く利用されている。 ◆ 葉がきめ細やかで、刈込みにより美しい芝生を作る。 ◆ 芝刈り回数は比較的少なくて済む。 ◆ 張り芝(マット/ロール)による施工が一般的。 	
	ノシバ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 踏圧、高温・低温、乾燥、病害虫等に比較的強い。 ◆ やせ地でも生育しやすい。 ◆ 葉幅は広く、芝刈り回数は比較的少ない。 ◆ 踏圧に強いが、いったん摩耗すると回復は遅い。 ◆ 張り芝(マット/ロール)による施工が一般的。 	
冬芝(種まきの適期 9月中旬~10月初旬)	ブルーグラス類	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 病害に強いが、高温乾燥に弱い。 ◆ 踏圧に比較的強い。 ◆ 播種による施工が一般的。 	
	ライグラス類	<ul style="list-style-type: none"> ◆ オーバーシード(OS)用の種子として利用されることが多い。 ◆ 高温乾燥、踏圧に弱い。 ◆ 冬芝の中で生長は一番早いが、夏にはほとんど枯死する。 ◆ 葉裏に光沢があり、美しい。 ◆ 播種による施工が一般的。 	
	フェスク類	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 冬芝の中では葉幅が最も広く、葉が粗い。 ◆ 暖地でも良く育ち、乾燥と日陰に強い。 ◆ 初期生長に時間がかかる。 ◆ 播種による施工が一般的。 	

夏芝の比較イメージ

生長力	バミューダグラス >	ノシバ >	コウライシバ
擦り切れの強さ	ノシバ >	バミューダグラス >	コウライシバ
水枯れへの強さ	ノシバ・コウライシバ >	バミューダグラス	
葉の繊細さ・美しさ	バミューダグラス・コウライシバ >	ノシバ	